

今月の逸品

NO.17 2016.08

京都市伏見区深草藤森町1
☎ : 075-644-8840/8175
✉ : manabi@kyokyo-u.ac.jp
🕒 : 13:30 ~ 17:00
🗓 開館日 : 月・水・金



大文字山の花こう岩と褐簾石

京都市左京区大文字山産出
京都の夏の終わりを告げる風物詩として「五山の送り火」がある。東山如意ヶ岳の「大文字山」は、その一山として全国的にも知られているが、この大文字山をつくる代表的な岩石が花こう岩である。大文字山の花こう岩は、今からおおよそ9000万年前に灼熱のマグマが地下深所から地上近くへ上がってきて冷え固まった岩石と考えられている。一般に花こう岩を構成する鉱物の主なものは、石英、斜長石、黒雲母などであるが、よく観察すると、この花こう岩には、長さ数mmで、一見するとシャープペンシルの芯のような色や形をする鉱物も見られる。褐簾石とよばれるこの鉱物は、弱い放射能を持つ放射性鉱物で、学名をアラナイト (allanite) という。1903(明治36)年に比企忠博士(京都帝国大学)が京都で見つけた褐簾石として報告している。慈照寺(銀閣寺)山門前の大文字山への登山道を進んで行くと、太閤岩とよばれる花こう岩の露頭があり、この崖で褐簾石を含む花こう岩を観察することができる。



● 太閤岩：褐簾石をふくむ花こう岩の露頭位置図